

第七次甲府市総合計画説明会 会議録（千塚地区）

日 時	令和8年7月7日（火）午後7時00分～午後8時10分
会 場	北公民館 大ホール
参 加 者	84名（市長等及び関係職員含む）
次 第	1 市長説明 2 意見交換 3 地区からの挨拶
意見交換記録	
質問	・「信玄の湯 湯村温泉」を拠点とした観光施策について 湯村温泉はかつて中心街として栄えたが、少子高齢化が進み、千塚小学校の児童も300人を切り、一学年1クラス、2クラスになっている状況である。過去の賑わいを知る世代からは、現在はホテルも様変わりして老人施設のような状況になっているように感じられ、本当に今の湯村温泉の活性化が求められるのかどうなのか。昇仙峡とも合わせた中での活性化を進めていただいているとのことであるが、活性化に向けての市による支援のあり方や地域全体の将来像についてお伺いしたい。 また、千塚の交差点周辺にあった昔からの商店街が時代の流れで1つ消えてしまったが、もう一度活性化を図りたいと考えている。畑も田んぼもみんな分譲地になっており、千塚地区を我々が守っていかなければならないが、併せて市の考えをお伺いしたい。
樋口市長	「信玄の湯 湯村温泉」については、武田信玄公ゆかりの温泉地として、また、太宰治をはじめとする多くの文豪にも愛され、弘法大師により開湯されたと伝えられる、約1,200年の時を刻む歴史ある温泉郷である。 本市としては、本年3月に策定した「第4次甲府市観光振興基本計画」において、当該温泉郷の賑わい復活に向けた取組を「最重点事業」として位置付け、持続可能な稼ぐ観光地域を創出するため、山梨県や金融機関など多様な関係者と協議を進める中で具体的な支援内容を検討してきた。 今年度においては、甲府観光開発株式会社が中心となって整備する飲食機能や物販機能などを兼ね備えた複合施設「仮称やまなしマルシェ」の建設費用に対する補助支援に加え、市道「湯

	村本通り線」の一部を石畳風のデザインに舗装する工事を実施していくので、周辺地域の皆様方においては、ご不便をおかけするがご協力をお願いする。 今後においても、再開発事業の取組を多様な主体と連携して着実に進め、本市を代表する観光地「信玄の湯 湯村温泉」の魅力を更に高めていくことで、観光の宿泊拠点として多くの来訪者にご利用いただき、「日本遺産 御嶽昇仙峡」をはじめとする本市の誇るべき観光地と湯村温泉を線で結び、やがてそれを面へと発展させ、再開発事業の効果が市内全域に波及するよう取り組んでいく。
質問	・千塚交差点南側道路の整備について 千塚交差点から南側の音羽橋へ降りる道路について、歩道が狭い構造であることや、電柱が通行の妨げとなっている現状であり、電柱については常磐ホテル東側の道路も同じ状況である。 周辺の道路整備に伴い交通量が増加する中、特に子どもたちの通学等の安全確保が喫緊の課題であるが、市の考えを伺いたい。
まちづくり部長	交通安全対策については、通学路交通安全プログラムに基づき学校や警察等との合同点検により、必要な安全対策を進めており、千塚交差点南側道路については、令和6年度に舗装の打ち替えと合わせて歩行者の安全を確保するよう、グリーンベルトを更新したところである。電柱の移設については、移設先の確保や関係事業者との協議が必要であり、現地の状況を確認しつつ対応を検討していく。
質問	・学童保育の開設時間の見直しについて 学童保育と放課後デイサービスを併せ持つ事業所に勤務している。 学童保育の開設時間が平日は下校から19時まで、創立記念日などの一日休みや長期休みは8時から19時までと長時間お預かりして安全に過ごすために私たちは働いているが、19時に親が迎えに来るとなると、家庭生活では20時に晩御飯、21時にお風呂、22時に寝るというペースかなと思うが、翌日6時に起き、7時に朝ご飯、そして登校するとなると子ども

総務部長	もたちが８時間くらいしか寝ておらず、寝不足の原因になると思う。 また、長時間労働ということに関すると、働き方改革が進み、スタッフは交代して勤務しているが、子どもたちは朝８時から１９時までずっと事業所にいる。子どもたちの負担を考えると開設時間を１８時までにはしていただきたい。 働く人の健康を守るために法案もでき、家庭と職場との両立ができるようになってきていると思うが、子どもたちは１１時間も預けられていることは子どもたちの負担につながっていると思う。以前は長時間預かってほしいという保護者からの要望で開設時間を延長したと思うが、今後１０年間の中では、できるだけ短く、それから親の働き方が見直されているのだったら子どもの生活も見直してもらいたい。 学童保育については、これまで保護者のニーズを確認しながら段階的に開設時間を延長してきた経緯がある。 甲府市は「子育て支援」と「子育て応援」の両輪で施策を展開しており、今後も保護者の意見を聞きながらあるべき姿を検討していくので、ご理解いただきたい。
意見	保護者の立場からは、できるだけ安全に預かってくれるところに長く預かってほしいというのは本当の気持ちだと思うが、私は、子どもの立場で考えてほしいということを第一に考えたい。 子どもの意見を市に反映する場面は少ないと思う。アンケートにしても大人が書くが、子どもはどうかというところは大人が想像しなきゃならない。 １１時間は長時間だし、夏休みは毎日となると、やはり子どもの負担になると思うことが大事なのではないか。大人の働き方が守られてきているのであれば、子どもの生活も守っていただきたい。
質問	・中心商店街への回遊性等について 東京から甲府へ帰郷し、信玄の湯湯村温泉の再開発や小江戸甲府花小路のオープンなど、以前よりもまちの熱量の創出がうまくいっている。一方で、小江戸甲府花小路には人がいるもの

産業部長	の、中心商店街への回遊性が欠如している。そういった回遊性、熱量の創出というところについて、市の考えを伺う。 中心市街地の回遊性の向上は市の重要な課題として認識している。小江戸甲府花小路には年間70万人の方が見られているが、この方々をどのように中心部を回遊させるのかということが、次のステップだと考えており、点と点を線に変え、面に変えていくことが課題だと考えている。8月に開催される「小江戸甲府の夏祭り」と連動し、中心商店街でも同時期にイベントやスタンプラリーを実施することで、来街者を回遊させる仕掛けを講じる。また、湯村温泉についても、DMOである甲府観光開発株式会社と連携し、石畳風の舗装による歩きやすい風情のある街並み整備を進めたうえで、どのように回遊性を高めるかという点を重視しながら事業を進めていく。
意見	そういったイベントをやっていただくことは重要だと思うが、真に熱量を生み出すうえで最も重要なのは、訪れる人をいかに甲府市のファンに変えていくかということではないかと考えている。身近なコンテンツになり得るのは、店主の方をはじめ地域の方との交流なのではないか。 祭りなどのイベントも重要だと思うが、その中で、地域の方と触れ合って、次はどういう機会を訪れようかという視点を持てるところが付加価値を高めていくポイントではないかなと思うので、そういった面でも、ぜひ観光開発を進めていただきたい。
質問	・甲府が選ばれるまちになるための考え方について 人口減少している地域が全国でも多くあるが、その中で移住者や外国人に甲府市を選んでもらえる特色あるプランや柔軟性のある考えを持っているのか、ずっと市長に聞いてみたかった。 全国的に移住者の取り合いとするならば、甲府市の強み等の発信やそういうプランを考えていただきたい。例えば、小学校に外国人児童が入学した際の支援や移住者の方たちに何か試みをするなど、今回の計画を見ていると内向きの施策ばかりで、移住を進めるというようなプランがないように感じたが、意見を伺いたい。

企画部長	今回、この第七次甲府市総合計画を策定する際に、いろいろな方からご意見をいただいた。 本市の魅力として、ぶどう棚の景観や、観光地と市街地が近接する「都市型観光」といった面がある中で、移住等に対する具体的な支援策としては、移住支援金や子育て負担の軽減策を既に展開しているほか、移住の働きかけや移住者同士が意見交換できる場の設置などのサポートを行っている。 また、外国人児童への支援については、日本語学習のサポート体制を整えているところではあるが、今後も「甲府を好きになり、住み続けたい」と思ってもらえるような仕掛けを検討していく。
樋口市長 (まとめ)	本日は、説明を聞いていただき、またご意見・ご要望をいただき、ありがとうございました。 総合計画は市の最上位計画であり、この下に、子育て支援計画や多文化共生計画、高齢者福祉計画などが全部ぶら下がっていることになる。 人口減少に歯止めをかけるよう、一生懸命取り組んでいるが、右肩下がりになっている状況である。その中で、外国人市民の方の割合も上がってきており、他の地域では自治会の担い手になってくれているところもあるので、全ての市民、甲府に関わりのある全ての皆様が幸せを感じていけるよう努めていく。 また、子育て環境ランキングが3年連続総合1位となっている要因は、甲府市医師会が子どもたちの救急医療体制をしっかり整えてくれていることで、非常にポイントが高くなっている。その他にも、様々な子育て支援や子育て応援に取り組んでいるが、また市民の皆様から貴重なご意見を伺いながら、一つ一つ安心していただけるように努めてまいりたい。 湯村温泉についても、観光面での最重要課題として捉えており、今年から目に見える形で一つ一つ事業を進め、かつての賑わい、湯村温泉に来てみたい、山梨県に泊まるならここだというような形になるように官民挙げていろいろな団体と連携して取り組んでいきたい。 そして、旧岡島百貨店跡地の民間再開発支援を通じて、歩いて楽しめるまち、何度も来てみたいまち、皆様の意見を聞きな

	がら、歴史と文化と素晴らしい動物園があるような、甲府らしいまちづくりにしてまいりたい。 学童保育についてはいろいろな考えがあって、どういうふうに進めていくかということもまた課題だと思うが、しっかりと受け止めさせていただき、教育部や子ども未来部の中で、問題についてよく掘り下げていく。ただ、子育て支援という面では相反する話にもなり、議会での質問や市民の皆様からの要望も多いので、子どものためにとはどういうことかということも庁内で議論を進めさせていただいて、私どもから市民の皆様と話し合っていけるようなことにできればというふうに考えている。また現場の声、あるいは子どものこと、様々なことについてご教示いただければありがたい。 いろいろな御意見をいただいたので、しっかりと持ち帰らせていただき、幸せに感じられるようなまちづくりを、皆様と一緒に進めてまいりたい。
地区からの挨拶要旨	
千塚地区自治会連合会会長	千塚地区としても昔の勢いを取り戻せるよう、努力をしてみたいので、総合計画がどんどん進んでいくように、よろしくお願いします。 会場の皆様も大変ありがとうございました。